

[成果情報名] 温州ミカンにおける夏季のミカンハダニの被害が果実品質に及ぼす影響

[要約] 温州ミカンにおいて夏季6～8月のミカンハダニ平均寄生密度の最高値が5.5～23.6頭/葉、春葉の被害度が40程度となっても、果実品質への影響はない。果実の被害も問題にならない。

[キーワード] ミカンハダニ、被害度、温州ミカン、夏季、果実品質

[担当] 長崎県果樹試験場・病害虫科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール fbyochu@afes.pref.nagasaki.jp

[区分] 九州沖縄農業・果樹、病害虫

[分類] 指導

[背景・ねらい]

ミカンハダニは年間の発生回数が多く、防除回数も多くなる。温州ミカンにおいて年間のミカンハダニ寄生密度を3頭/葉以下に抑えると、収量や果実品質へ及ぼす影響はなく、被害は問題にならない。ミカンハダニ防除の省力化をすすめるため、夏季の6～8月におけるミカンハダニの被害が果実品質・果実被害に及ぼす影響を調べ、効率的な防除技術を確立する。

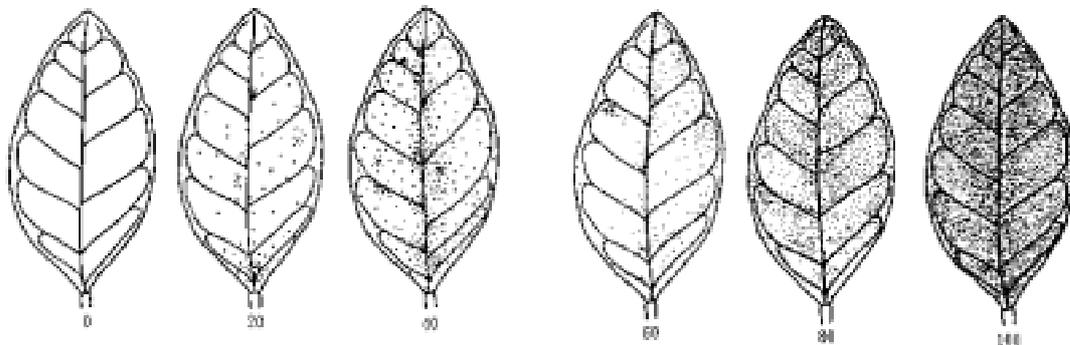
[成果の内容・特徴]

1. 温州ミカン‘青島温州’において、夏季6～8月のミカンハダニ平均寄生密度の最高値が5.5～23.6頭/葉、春葉の被害度が40程度となっても、果実糖度、酸含量、糖酸比への影響はない(図1、図2、表1、表2)。
2. 果皮色および果実被害への影響もない(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. ミカンハダニ多発生地域における夏季の効率的防除に活用できる。
2. 夏季の被害度の平均が60以上になった場合の影響は明らかでない。

参考



ミカンハダニ被害程度調査指標(日植防調査基準:愛媛果試,森介計)

[具体的データ]

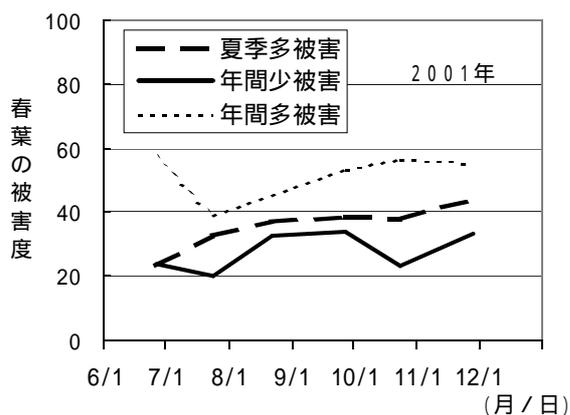


図1 ミカンハダニによる被害発生時期別の春葉被害度の推移

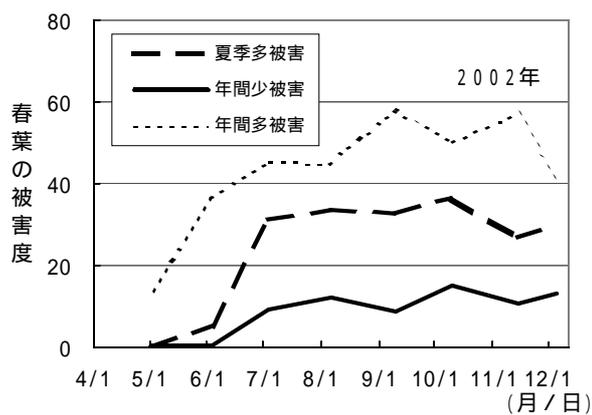


図2 ミカンハダニによる被害発生時期別の春葉被害度の推移

表1 時期別のミカンハダニ平均寄生密度の最高値と到達時期

試験区	平均寄生密度の最高値(頭/葉)と到達時期(月旬)					
	2001年			2002年		
	1~5月	6~8月	9~12月	1~5月	6~8月	9~12月
夏季多被害	0.4(5上)	23.6(7上), 6.7(8下)	2.6(11下)	1.9(5下)	5.5(6下)	0.1(11上)
年間少被害	0.3(5中)	4.2(6下), 13.3(8下)	4.6(11上)	0.1(4中)	1.5(6下)	0.0(11上)
年間多被害	0.3(5中)	32.6(6下), 9.0(8下)	8.5(9下)	13.7(4中)	10.1(6中)	1.9(11上)

表2 ミカンハダニ被害発生時期の違いと果実品質^z

区 ^y	糖 度 ^x		酸含量 (g/100ml)		糖酸比		果皮色				被害度 (果実)	
							L 値		a 値			
A	10.9	13.6	0.95	1.31	11.8	10.6	65.8	65.5	34.0	30.5	1.8	0.4
B	11.3	13.3	0.98	1.25	11.7	10.9	65.0	65.0	34.7	29.9	2.4	0
C	11.3	13.7	1.05	1.58	10.9	8.7	65.7	63.7	32.4	30.8	8.5	10.6

^z 5 樹の平均値、数値は2001年12月5日(左)と2002年11月26日(右)の値 品種大津4号

^y A区夏季多被害、B区年間少被害、C区年間多被害

^x 同一年の各品質・被害は区間に有意差(5%)がない

[その他]

研究課題名：温州ミカンの品質保証果実の少資材・低コスト生産体系の確立

予算区分：国庫(地域基幹)

研究期間：平成14年度(平成11年~15年)

研究担当者：中村吉秀、早田栄一郎、小嶺正敬